

令和8年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
自分のよさを切り拓く子ども ①進んで勉強しよう ②思いやりのある人になろう ③丈夫な心と体をつくろう ④ふるさと(浦里)に学ぼう	「他者とのつながりの中で『やってみよう』と『それもいいね』が響き合う、浦里小の学び作り」～『やってみよう』を生み出す学習過程の工夫と、安心できる『人間関係づくり』を通して～	
	今年度の重点目標	
	①	子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～
	②	自他のよさを認め合う場面の位置づけ
	③	運動・遊びの日常化
	④	地域と連携したふるさと学習

総合評価					
昨年度と比べて、児童の評価は全体的に高くなっている。特に高学年の評価が高い。項目では、「自己有用感」や「自己肯定感」に関わる項目が高くなっており、小規模校であるからこそ、一人一人が活躍する場があり、それぞれに自分の力を発揮し、認められている実感を感じている様子がうかがえる。しかし、人数が少ないため、評価についても全体の傾向だけで捉えず、個々の様子を捉えていくことが大切だと考えられる。今後、個々の児童理解を深め、個に応じた学びをさらに充実させられるようにしていきたい。 「やってみよう」「それもいいね」と合言葉を設定したことで、願いが職員の中にも児童の中にも位置づき、「やってみよう」と主体的に行動することが増えている。そのことから全体的な評価も高くなっているように感じるので、子どもたちの願いから始める主体的な活動を大切にしていこう。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
職員が連携し児童理解を深めることで、個に応じた学びが充実してきているが、主体的な学びにはまだつながっていない面も見られる。	○				職員による児童理解だけでなく、児童が自分自身への理解を深められるように、振り返りを大切にしていこう。
「うらさとスマイルタイム」を新設し、今年度の合言葉「それもいいね」を日常生活に取り入れていけるようゲームを通じて学んでいる。	○				「うらさとスマイルタイム」を行うことで、職員の研修を重ね、どのような内容をどう価値づけていこうと考えていこう。
毎朝マラソンに取り組むことが習慣化してきた。休み時間もドッジボールやサッカーなど学年の枠を超えて楽しんでいる。	○				児童主催の「みんなで遊ぶ日」の取り組みのおかげで、学年を超えて一緒に遊ぶことが増えているので、継続する。
保護者とも、お助け隊の活動内容を共有することで、理解が深まっている。	○				子どもたちが願いをもって活動できるように、自分たちで決める場面や、地域の方の思いを聞く機会を大切にする。

領域	対象	評価項目	評価の観点
重点目標	①	学習に向かう姿勢	基礎基本の力をつけ、子どもが粘り強く学習に取り組めるよう支援したか。
		自己表現する力	一人で考えたり、意見を共有したりする場面をとるなどして、自分の考えを表現できるよう支援したか。
		個別最適な学び	一人一人の学び方の個性を生かし、合理的な配慮に基づいた学習を保障しているか。
	②	異年齢の友だちとの活動	縦割り班、連学年授業、連学年担任制、こまゆみ教室、保育園との交流などを通して、相手を思いやる意識を高める場面が設定できたか。
		コミュニケーション能力の育成	人権感覚を磨き、互いに認め合える集団づくりができたか。
	③	体力づくり・遊びなどの日常化	マラソン、休みがき、休み時間の遊びなどの場面で、子どもたちが自分から体を動かすよさを感じるようにはたらきかけたか。
		健康増進への取り組み	歯科指導、栄養指導など、子どもたちが自身の健康に意識を向けるような学習を行ったか。
		自己有用感の育成	学級活動や児童会活動などを通して、自己有用感を育てられたか。
	④	ふるさと学習の充実	地域の方と連携し、教科横断的なふるさと学習を実施できたか。
学校運営	地域との連携	コミュニティ・スクール	授業や行事への参加を通して、学校運営に意見をいただき、その意見を教育活動の改善に生かしたか。
		PTA活動	コミュニティ・スクール実践目標のあいさつ・メディアとの関わりを重点に、学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
	研修	授業づくり研修	「他者とのつながりの中で『やってみよう』と『それもいいね』が響き合う、浦里小の学びづくり」に向け、学習過程の工夫について取り組んでいるか。
		非違行為防止研修	定期的に研修を行い、非違行為防止に日々努めているか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学習に対してねばり強く考える姿が増えてきているが、主体的な学びにはまだつながっていない様子もある。		○			引き続き振り返りを次の学習に生かすことを、職員で心掛け、学習以外の場面でも主体性を育てる。
授業だけでなく、全校や縦割り班で話し合う活動を多くするようにしている。意見を受け止めてもらえたという実感をもてるような聞き方について、全校で学んでいる。	○				川西小学校との交流で相手意識をもって表現する場を多く設定する。
他の職員と情報を共有し、連携して指導している。ICTを使用するなどの合理的配慮についても随時検討している。	○				少人数のよさを生かし、引き続き一人一人の児童を全職員でみることを大切にしていこう。
縦割り班や連学年で、学年を超えて協力したり活動したりすることができている。「うらスマ」の時間に相手を大切にしたいコミュニケーションのとり方について学んでいる。	○				縦割り班や連学年での活動のよさがより生かせるよう、工夫を考えていこう。
児童は友達を大切にしているという意識が高い。昨年度あまり高くなかった互いに認め合える集団づくりで職員のA評価が増えた。	○				「うらスマ」での学びを日常生活に生かしていけるよう、学びを全体で共有し価値づけていこう。
朝のマラソンが定着している。休み時間も、学年を超えてドッジボールやサッカーなどを楽しく姿が見られた。	○				マラソンについては継続して児童会と共に声をかけていこう。今年度もマラソンカードを使用し意欲を高める。
健康週間などに専門の先生に協力していただき学習する取り組みを継続している。オンライン授業も実施した。	○				取り組みがその時だけのものにならないよう、継続して声をかけていこう。
人数が少ないことで一人一人の役割が大きく、児童会や係活動を頑張っているという意識をもつ児童が多い。	○				子どもたちから提案のあったことを実現していく機会を大切にする。
例年決まった活動にとどまらず、子どもたちのやりたい願いの実現に向け、協力していただいている。	○				時間の制約はあるが、子どもたちの願いを大切に、地域の方と事前打ち合わせをいねいに行い活動する。
学校運営協議会やコミュニティ委員会が報告で終わらず話し合いになるよう準備を行った。	○				「できる人ができる時にできる範囲で」という原則を大切にねばり強く呼びかけていこう。活動のフィードバックも大切にしていこう。
メディアコントロールについては家庭によって差が大きい。朝の見守り隊の方へのあいさつは向上してきている。		○			メディアコントロールについては、PTA子育て委員会と連携し継続して取り組む。
遠隔教育の有効な実施について昨年度から引き続いて研修しながら実践を行ったり、「うらスマ」の実施についてより効果的の学びになるよう職員間で話し合いを重ねたりした。		○			11月に人権同和教育の授業公開を行う予定となっている。授業研究で考えたことを、日常の授業や生活に生かしていこう。
非違行為について、自分事として捉えられるように、各月に担当職員を決め、研修の内容も工夫して取り組んでいる。	○				体罰はもちろん、児童の人権を大切にしたい指導について学ぶことや、交通法規などについて繰り返し自分事として振り返る。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった